







昭和三年五月十二日 (四)

ノロエスティ欄  
濱口領事歸館

本月二日、パウル發、單身マトグロツソ州カンボ・グランデ市に出張せる濱口パウル領事は、十日アリアンサ、チエテ移住地でプロミツソンまで同行同所にて泊、翌十一日グワガーラ驛多羅間耕地に至り佐藤次郎氏と会見、午後リスに立寄り小憩した。副島氏と密談の後十二日正午ベンナ發列車にてパウルへ歸館した。

## 多羅間氏引越し

グワガーラ驛多羅間耕地主名羅間鐵輔氏一家は、昨十二日午前九時半のマトグロツソ急行にてリス着出迎への佐藤支配人操作の自動車にてカンペストレ耕地に引越しが終へた。

## 多羅間學園

リス學園では去る六日から授業を開始し午前八時から午後三時まで日本語を授けてゐるが生徒數は六十名に達し、夜學の希望者もあるので十六日から夜學部をも開始することとなつた。教員の顔觸れ左の如くである。名譽校長(ビセンテ・バカラベーラ氏)校長(教頭として)谷垣勝義氏(教師)伯語正教員)ジャニ・ルナン女史(夜學部日本語)ルイス・マルチン氏(遺産秀雄氏)義雄氏

栗津金六氏近々歸伯  
昨年十月急遽日本へ旅立つた栗津金六氏は、四月中旬サントス入港の商船はわい丸で着伯の由留宿宅に入電あり更に附加して日本政府の嘱托(?)として北伯綱めリスを立ち退く由も報せられた。

## 公 告

## 汎リンス青年會

Caxias Postal, 203  
Est. Lins  
L. Noroeste

西村宮近桐石井藤原集城山川清次守磨保七郎子市貞雄郎次中溝峯田吉川竹次  
古河伊藤田原集城浦田準與市德郎清久金岩平野嘉福太仁牛德松郎志  
内國郵便(伯國)青森寅吉長田宇喜三八  
大山山山渡渡唯高富高玉新佐佐嶋大尾岡小岡中中仲中中中中松松森道嘉劍金石崎上愛之輔  
城本邊野良島宅藤崎城崎林田原下山石村村井松島德川國三造郎寄龜次M  
西井タ木基國忠利太郎葉寅元利藏三重喜郎Y秀吉仁子吉子吉郎助郎  
カサグ清正方喜M孝子男平郎子三松留S利藏三重喜郎  
T Cナキマ三武藏一直喜

昭和五年三月

大正九年三月

昭和五年三月

昭



幼者への  
情操教育

家庭らん

DR. CASSIO ROLIN  
Cirurgião da Santa Cesa  
NIPPO-BRASILEIRA  
CLÍNICA DENTISTA  
DENTISTE  
外科・婦人科専門  
泌尿生殖器科  
力・シ・オ・ド・トール  
村上眞市郎  
市  
中矢商店の前  
診察時間  
午後一時—五  
自宅ルア・アワラ  
ラ七〇  
電話四八四一九



南北戦争の始まる前、南部諸州の代表者の前でリンカーンは述べた、「諸君は我々と同様に善良な人達である。諸君と我々との間には事情の相違以外には何等異なる處がない。我々は諸君の胸中他の人と同じく善良な心の存在する事を知る。諸君は我々と同様に雄々しく勇敢である。諸君は他の人々と同様に、男同志として善なる目的の爲めに勇敢に戦ひ得る。我々は信ずる諸君は種々の場合に斯く爲し得る事を示された。」

ンカーンが未だ大統領にならぬ時、或朝例の通り自分の廬所に出掛ける途中、一匹の山羊が彼の途を擁してゐるのでに出でた腕白な子供等は此の山羊を手を後に組んで、何事かを考へてゐた。彼は素早く山羊を垣の角を握つて、山羊に言ひ合つた。

「お前が私に對して害を爲さなければならぬ理由は少くない、亦私がお前に害を與へる様な理由もないのだよ、中は廣い、お前の本分を守つて、私は私の本分を守つた。」

「お互に仲よくして行けば、誰もが危険はない——虚偽、術數、巧言、奸詐、是等のものを上手に分けて行かなければ敗殘する人もなく、默々として歩んでゆく彼は『淋しい人』になるのが當然である。

——と、私達は、世の毀譽も、貶謗も、賞讃も、疾視も、其の事を後に残して、灰色にならぬる野を、夕暮一人淋しく辿る旅人の姿を彼に見る、見聞者は常に淋しい人である。

車はバルバの村を出て奇麗に手入れされた垣々たる道を走る、ミヨは己に黄色枯れて重い大きな穂が垂れて居るマンデヨークの煙が道の兩側に展開する、もうこゝはコロニヤ、バルマで之が所謂共產村と紹介されて居る集團地である。

緩傾斜の丘を下ればパンカロの屋根を望む、芝生と花園で囲まれて大きな硝子窓の近代風のパンガローが建ち並んでブリマーベーラの花が垣根に桃色の花をつけて、風にゆらりと揺れて木蔭には中老の婦人が針を動かして刺繡に餘念がない、鳩は前庭に餌をあさつて、苗圃は谷に沿つて續く、茲は老廢者寡婦の集團である、生活の落武者であるそれ等の人達は皆體力相當時能相當の仕事をいそしむで居る老廢者は木蔭でホーキを作つて居る手細工して居るものである、裁縫室に入れば十三三臺のミシンが並んで妙齡の佳人が出来る、靴工場には婦人すら交へての器械で毎月レピュも出するフレットも出す若し婦人と若き者の靴を勤いて居る、片隅には紙が堆積されてグランボを打つ音が頑丈な労働靴や可愛らしい子供の靴花車など人靴が作られて居る、印刷工場がある小さな手刷の機械で毎月レピュも出する若し婦人と若き者の靴を勤いて居る、手細工して居る手細工して居る仕切られた部屋にはデンチスタが研究に耽つて居る。

炊事場の清潔さと整然さ！

バラック建たが眞鍮の器はさりげられ鍋も釜も光つて居る、塵居る仕切られた部屋にはデンチスタが研究に耽つて居る。

ナイフを磨く婦人達メーザ掃くモツサ達が甲斐しく勤いで居る、ブリミチープな食卓パンコの並んだ大きな食堂が炊

に隣つて建つ。ルジネロが苗木や花立ててる時計の修繕屋も、やがて庭を通り抜けて製の前に来た今迄の明るさと較べ之れは亦何と暗い感じる建物だらう! 全體の調黒すんだしやがんだ様な建ある、それでも私は此の工中を見るに及んで再び驚きを見据へねばならなかつた。一通りの製材機の外米器二臺フバ製造機一臺ミ脱粒器、マンショヨカ製粉器んで片隅には六馬力のポンが据つて居る、夜間の發電へて茲で二五〇ボルトの電起して點燈して居る、肉挽である小さな／＼製水器も、製棉所もある此等は皆水、九馬利用しタービン仕掛けの動力で此の一切の設備が動居る、十人の働き人で此の仕掛けが運用されて八時間の効率で行して居る。

|                                    |                              |               |  |                                |   |             |  |                 |   |
|------------------------------------|------------------------------|---------------|--|--------------------------------|---|-------------|--|-----------------|---|
| 品等の販賣農產物購入農產物保管<br>託販賣等の御用命に應じます   | 聖市ビニイロスコンメルシオ街四<br>電話 四二貳貳七九 | 伯物產株式會社<br>新月 | PHOTO-<br>OTTO STUDIO<br>池邊寫眞館<br>Tel. 2-5400<br>R. Liberdade, 70<br>R. Paulo. | 料亭<br>あをやか<br>コソデ街三三<br>電話二二九六 | 渡<br>Caixa Postal, 33<br>Moç <sup>as</sup> das Cruz<br>L. Central | 求青年<br>力マラダ | 辯護士牧義朝<br>事務所 Rua S. Benito, 10<br>andar salão<br>Telefon 2-1757<br>Caixa Postal, 1757<br>S. Paulo | 時間 面會<br>至午前十九時 | 辯護士ドール・ジョージ<br>法律事務所の指導の下に誠心誠意<br>サンバウロ辯護士會の創立<br>人であります既に廿餘年間辯護士<br>家で專心終始せる真摯なる |
| 料品各種農業用諸機械農作用藥品<br>類金物類各種肥料特に馬鈴薯用肥 | 聖市コンセレイロ・フルタード街五<br>電話一九九九   | 新月            | PHOTO-<br>OTTO STUDIO<br>池邊寫眞館<br>Tel. 2-5400<br>R. Liberdade, 70<br>R. Paulo. | 料亭<br>あをやか<br>コソデ街三三<br>電話二二九六 | 渡<br>Caixa Postal, 33<br>Moç <sup>as</sup> das Cruz<br>L. Central | 求青年<br>力マラダ | 辯護士牧義朝<br>事務所 Rua S. Benito, 10<br>andar salão<br>Telefon 2-1757<br>Caixa Postal, 1757<br>S. Paulo | 時間 面會<br>至午前十九時 | 辯護士ドール・ジョージ<br>法律事務所の指導の下に誠心誠意<br>サンバウロ辯護士會の創立<br>人であります既に廿餘年間辯護士<br>家で專心終始せる真摯なる |
| 料品各種農業用諸機械農作用藥品<br>類金物類各種肥料特に馬鈴薯用肥 | 聖市コンセレイロ・フルタード街五<br>電話一九九九   | 新月            | PHOTO-<br>OTTO STUDIO<br>池邊寫眞館<br>Tel. 2-5400<br>R. Liberdade, 70<br>R. Paulo. | 料亭<br>あをやか<br>コソデ街三三<br>電話二二九六 | 渡<br>Caixa Postal, 33<br>Moç <sup>as</sup> das Cruz<br>L. Central | 求青年<br>力マラダ | 辯護士牧義朝<br>事務所 Rua S. Benito, 10<br>andar salão<br>Telefon 2-1757<br>Caixa Postal, 1757<br>S. Paulo | 時間 面會<br>至午前十九時 | 辯護士ドール・ジョージ<br>法律事務所の指導の下に誠心誠意<br>サンバウロ辯護士會の創立<br>人であります既に廿餘年間辯護士<br>家で專心終始せる真摯なる |
| 料品各種農業用諸機械農作用藥品<br>類金物類各種肥料特に馬鈴薯用肥 | 聖市コンセレイロ・フルタード街五<br>電話一九九九   | 新月            | PHOTO-<br>OTTO STUDIO<br>池邊寫眞館<br>Tel. 2-5400<br>R. Liberdade, 70<br>R. Paulo. | 料亭<br>あをやか<br>コソデ街三三<br>電話二二九六 | 渡<br>Caixa Postal, 33<br>Moç <sup>as</sup> das Cruz<br>L. Central | 求青年<br>力マラダ | 辯護士牧義朝<br>事務所 Rua S. Benito, 10<br>andar salão<br>Telefon 2-1757<br>Caixa Postal, 1757<br>S. Paulo | 時間 面會<br>至午前十九時 | 辯護士ドール・ジョージ<br>法律事務所の指導の下に誠心誠意<br>サンバウロ辯護士會の創立<br>人であります既に廿餘年間辯護士<br>家で專心終始せる真摯なる |
| 料品各種農業用諸機械農作用藥品<br>類金物類各種肥料特に馬鈴薯用肥 | 聖市コンセレイロ・フルタード街五<br>電話一九九九   | 新月            | PHOTO-<br>OTTO STUDIO<br>池邊寫眞館<br>Tel. 2-5400<br>R. Liberdade, 70<br>R. Paulo. | 料亭<br>あをやか<br>コソデ街三三<br>電話二二九六 | 渡<br>Caixa Postal, 33<br>Moç <sup>as</sup> das Cruz<br>L. Central | 求青年<br>力マラダ | 辯護士牧義朝<br>事務所 Rua S. Benito, 10<br>andar salão<br>Telefon 2-1757<br>Caixa Postal, 1757<br>S. Paulo | 時間 面會<br>至午前十九時 | 辯護士ドール・ジョージ<br>法律事務所の指導の下に誠心誠意<br>サンバウロ辯護士會の創立<br>人であります既に廿餘年間辯護士<br>家で專心終始せる真摯なる |

及女を委細は下記へ御面談  
ル・シバヤマ 柴山勘次  
リヌス市ルイスガマ街  
設計、製圖、地測量、道路  
諸食及び工事監督等  
務所  
市 バロン・ア・パナニアカーパ街二番  
九路四五號室 電話二一三三六  
チ、ヤケド、ウチイタミ、デキモノ  
ヨウ、シキウビヨウ、チノミチ  
ンサン、ゾゲギ、リヨマチス、シ  
ツー、ヒンケツ。御注文の時病状  
さい。(金)ゴンバロ、廿日分廿二  
共。本舗神戸北長狭通四島田大光  
支店バイローリモソ 安宅とレ  
Y. Ataque Caixa, 3146 S. Paulo

## 源さんの事(下)

△市 吉 次 郎

その男は一日近所の村で注文をさつて来る。二日三日は切せたお膳の缺けたのやら、お櫃の剥いたのやらの修繕をして又村の方へと持廻つて行た、そして銅貨の手を握つてゐたがおぶんも知るやうに手を握つてゐた。お銀貨のチャラ／＼してゐる財布を首つ玉に引かれて歸つて来る。其の晩は乾度酒を飲んで歌を唄つた、そして肉を煮る香りが旨そうに源さんの部屋まで流れ来た。

「おぶんちやん食はないけれども、或晚塗屋は源さん等に聲を掛けた彼は可成醉ばらつてゐる風だつた源吉等とも名前位ひは知合ふ仲にもなつてゐた。二人は彼の部屋へ入つていつた新聞紙の上には駄菓子が澤山並んでいた。

「呑氣やなあ、あんたの商賣はおぶんがそんな事を言ふと呑氣は呑氣や、青空の下が家だけに食つたり、飲んだり、唄つたりが一生だ」

「故國にはお内妻さんが待つてゐるだろうに」

「内儀さん? そんな氣のきいたものなんかあるもんか、そんなのがあるくれえならもつと幸運するんだがに」

「嘘だに、屹度子供でもあるんだけに食つたり、飲んだり、唄つたりが一生だ」

「源さんは駄菓子が梯子段だん遠くなつてゆくと見えた。源さんは黙つて駄菓子をボツリボツリ食つていた。

源さんは間もなく『俺あ、湯に入つてくる』と言ひ乍ら其處から出たがおぶんは座つてゐた。

源さんの足音が梯子段だん遠くなつてゆくと漆屋は『いゝ旦那さんを持ておぶんちゃんは幸せだに』と探るやうな、まじめらしい眼でも源さんだけはいつまでも

『へん、あんなしみつたれ、すかん』

『俺あ辛棒人だ』と思つてゐる

『俺あ辛棒人だ』と思つてゐる

『俺あ辛棒人だ』と思つてゐる

『俺あ辛棒人だ』と思つてゐる

『俺あ辛棒人だ』と思つてゐる

『俺あ辛棒人だ』と思つてゐる

『俺あ辛棒人だ』と思つてゐる

『嘔吐でも出そうな表情をしたとき漆屋の手はいつかおぶんの手を握つてゐた、がおぶんも知るやうに』

『可愛いづらあるもんけ、あんれるど、其の晩は乾度酒を飲んで歌を唄つた、そして肉を煮る香りが旨そうに源さんの部屋まで流れ来た。

『おぶんが燃える様な眼をむけた男は女の肩をついた。するとおぶんが燃える様な眼をむけた男は女のかな』

『まるで待つてゐた様におぶんはすぐ仰向にそへ倒れた。それから三日ほど経て源さんはボンヤリと獨りで村へ歸つたがその日は『大岡の幸せあし』と

『これで源さんが伯刺西爾へ來た譯も略ば見當がついたであろう。おぶんは漆屋と逃げてしまつたのであつた。

『それで源さんが伯刺西爾へ來たが日本では、あらゆる享樂を犠牲にする事が辛棒人であり、ベシナで、客の粗衣粗食家が丹波の人に成られて知り識ずそんな人間に成るだとか考へられて來た。かりの不安心が彼等の心を揺ん

『それで源さんは日曜には餘計に働く、仕舞つて揚句の果には女房にまたま雨が降ると濡れながら廻を搔廻してゐる。そして逃げられてしまふのである。そしてお氣の毒にも源さんは日本から持て來た微菌がブランで無くなる筈もない。

『お互に望みあつた事は、この小さい浮き城の中の人々が、これまで海上に浮き城の中の人々が、これから先、朝夕生活と共にせねばならない。船客達は今更、孤獨の淋しさを味ははじめた。ほんの少しばかりの哀愁を抱かせて夢の様に薄れていつた。

『やがてその山々の影も消へて、船尾ハ国旗とメインマストの船旗が空氣の波動の中に搖れて居た。だん／＼遠ざかつてゆく、美しい緑の山や、街の赤い壁が

『中津山の洞窟をつくつた。船長の嚴丈な體軀は既に見えなかつた。』

『海鳥』 二 美

## SOCIÉDADE COLONIZADORA DO BRASIL LTDA.

Rua Alvares Penteado, 30 - 2 andar

Teleph. 2-1342 — Telegraph. "Ijurengo"

CAIXA POSTAL, 2975

S. PAULO

## 土地分譲案内

も 土 地 を 分 譲 し ま す

一、バストス、チエテ兩移住地とも、いつでも土地を分譲します

有限責任ブラジル拓植組合

## Cia. Terras do Norte do Paraná

Rua 3 de Dezembro, 12 - 5º andar — S. Paulo

(木)標高

(ヘ)一口地價

(ト)地價

世の中は不景氣でも斯くの如き好條件の優秀地帶の賣出しには見向かず居られまい、此際御希望の方は至急左記へ御申込下さい

總代理人 氏 原 彦 馬

自 宅 Rua Fontes Junior, 15  
Caixa Postal, 3234 S. Paulo

## 北 パ ラ ナ 珈琲 地 帶 賣 出

英國シンヂケート所有五十餘萬域の内分割二

萬域小口賣出

(イ)地權

は州政府より直接買受たるもの故絕對安全

(ロ)地味

はテーラローシャにして優秀なる珈琲栽培適地

(ハ)氣候

はよし勿論健康地

(三)場所

はチバザ一河を去る二十キロの地點、鐵道はチバザ一より賣出の

遊歩甲板を散歩して居つた船長

で來年中に開通の豫定自動車道はカンパラより賣出の

短歌

土地まで既に開通せり

短詩

花の黄いろなるかな

短詩

芝草にあればばべる一葉のへらまの

短詩

さよ風の庭芝に臥て夕暮れの空ゆく雲

短詩

砂路に漂洋流れて一頭の馬車あへざ行く秋の暮かな

短詩

力の溢れる脇さ脚

短詩

恩シナダの歯先を

短詩

ケンを打ち込んでケーモ引ばる

短詩

朝露にしきじ

短詩

オノムミ足跡に躍る土の感觸

短詩

ギラ／＼光る

短詩

カニ打ち込んでケーモ引ばる

短詩

浮き光つてゐる船尾に、この船

短詩

浮き光つてゐる船尾に、この船の名が讀まれた。

短詩

船尾ハ国旗とメインマストの船

短詩

旗が空氣の波動の中に搖れて居た。だん／＼遠ざかつてゆく、

短詩

美しい緑の山や、街の赤い壁が





